

熊本震災支援ニュース No.1

川崎協同病院

全日本民医連の震災支援報告

川崎協同病院は、第6陣から参加

渡邊寿美子（医療安全管理室：第6陣に参加）

全日本民医連からの支援は、震災直後から始まり、第5陣までは九州・沖縄地協での対応が行われていました。第6陣の4/29～は全国からの支援に切り替えられ、川崎協同病院から

は、第6陣（4/29～）、第7陣（5/1～）、第9陣（5/5～）に、それぞれ参加しています。

支援は4日単位で、1日目は大牟田市の米の

山病院に設置された全日本民医連災害対策本部に集合して一泊、2日目早朝にバスでくわみず病院と菊陽病院に向かいました。支援を終わって帰る方たちと引き継ぎを行い、各支援場所（病院のほか、避

難所・施設・仮設診療所・地域支援等）に向かいました。

私たち支援者の使命は「医療機能の維持」「職員のフォロー」そして「地域の支援」の3つでした。

第6陣が現地入りした頃は、ライフラインの復旧がかなり進んでいましたが、現地の職員は、自身が被災しながら、医療介護活動を守るために不眠不休で活動しており、疲労の色濃い状況でした。

支援が入ることで医療活動を支え、現地の職員を少しでも休ませることができたなら良かったと思います。

実質2日間の支援を終え、4日目の朝、次の支援者と交代して、帰って行きました。

将来の民医連医師？

ボランティアで縁ができた医学生

H医大の学生3人がボランティアを希望して現地を訪れました。

しかし現地では一般ボランティアを受け入れられる状況ではなく断られてしまい、困り果てた学生から全日本民医連に連絡がありました。民医連では、バックアップ

に医師をつけ、3人に活動してもらう事となりました。

3人がこのまま民医連奨学生となり、民医連の未来を支える医師となってくれることを、大いに期待します。



くわみず病院



福岡県最南端、熊本との県境大牟田市にある米の山病院
今回、全日本民医連熊本支援対策本部が設置された



渡邊が支援に入った小規模多機能施設「八王寺の杜」
一見大丈夫そうだが・・・



あちこちにひび割れやひずみがあった。

川崎協同病院 熊本震災支援対策本部発行 2016年5月6日

発行責任者：田中久善

May 6, 2016